

〔段注説文解字木六上〕綱木方受六升疑當作方斛受六斗廣雅曰方斛謂之桶月令角斗甬注曰甬今此六斗斛與古十斗斛異史記商君平斗從木甬聲他奉切

〔運歩色葉集〕違桶此六斗斛與古十斗斛異史記商君平斗

〔東雅器用十一〕桶ヲケ 倭名鈔に蔣魴切韻を引て桶はヲケ汲水於井之器也俗に火桶水桶菜桶腰桶等之名ありと註せりヲケとはヲは麻也ケは筍也延喜式に麻筍と云るされしものは是也此物の始績麻器より起りしかば水火の桶の如きをも皆呼びてヲケといひし也其制の如きも二式あり板を合せて圍となし束ぬるに竹篾をもてすると木を屈めて圍となし縫ふに樺皮をもてすると并に底を下に設くるもの也

〔倭訓栞前編五〕をけ 水桶をいふも令義解に女神には麻筍を奉るといふに水桶を書せれば其似たるより稱する成べし延喜式に水麻筍小麻筍と見えたり今も東國の桶は麻筍の如く木を屈めて圍とし樺をもて縫たる物多しとぞ那波氏東山道紀行に信州古無竹造桶檜爲箍とも見えたり

〔物類稱呼器用四〕桶をけ 上下總房州及武藏にてこがといふ註常陸にてとうご豊州及肥前佐賀にてかいといふ長崎にてそうと云大なる物をふといそうといひ畿内にてたご擔桶といふを江戸にてになひといふこれになひをけの略也又になふとは人ふたりにてもつを云かつくとなたごといふたごとばかりいふ時は畿内西國共に水桶也東國また豊後にてはたごと云は糞器をいふ也多識に尿桶と有この事にや京にてかたてをけと云を江戸にてはかたてをけ又さるぼう又くみだしとも云越前にてかいみづをけと云加賀にてか

いけ上野にてひづみと云造酒屋にて用ゆるかたてをけの大なるものを肥前にてたみをけといふ

〔安齋隨筆後編五〕一桶ノ訓 延喜式には桶の事を麻筍ヲケトと書たり上古は今のごとく竹の輪を入たる桶はなし皆曲物也其マゲ物麻糸をウミて納る麻筍田舎詞にはに似たる故水麻筍